

## Y02a 地球衝突天体を発見した時、我々はどのように対応すべきか

浦川聖太郎、奥村真一郎 (日本スペースガード協会)、吉川真 (JAXA)

小惑星や彗星といった天体 (地球接近天体) の地球への衝突は、我々が直面する最大の自然災害と言える。天体の地球衝突問題を扱う活動をスペースガード、あるいはプラネタリー・ディフェンスと呼ぶ。仮に直径300m程度の小惑星が、東京に衝突した場合、関東地方全体が壊滅する。東京に小惑星が衝突するということは、ただ単に地域が壊滅するだけではない。世界の経済に壊滅的な影響を与えることとなる。もし、東京のような大都市への小惑星衝突が現実なものとなれば、世界の多くの機関が衝突を避けるための英知を集めてくれるであろう。それでは、どの程度の規模の都市まで、世界は救ってくれるであろうか？そして、その判断は、どこで誰が行うのであろうか？そして、この時、科学者の役割は何であろうか？こうした、問題に対する議論は国内でほとんど行われていないのが現状である。また、2017年3月に隕石落下と思われる衝突痕が青森県の私有地で見つかる事象が発生した。これまでのところ、隕石は発見されていないが、仮に学術的価値の高い隕石が発見された場合、その保全と保護は誰がどのように行うべきであろうか？このような場合の指針も存在していないのが現状である。

本講演では、地球衝突天体問題の現状を述べ、地球衝突天体が発見された時、我々科学者がどのように対応すべきか議論を行う。